

## タイ人日本語教師の教師認知 ——タイ中等教育機関におけるピリーフ調査から——

福永達士

### 1. はじめに

筆者は2013年に国際交流基金バンコク日本文化センターに派遣されてから2年間、普段は配属先校支援として、東北地方の中等教育機関に常駐し、タイ人教師や教育実習生と日本語の授業を担当した。また、地域の日本語教師支援として、中等教育機関を定期的に巡回指導し、各地で教師研修を実施してきた。巡回指導時における効果的なアドバイジング、より現場のニーズに合った教師研修を実施するためには、タイ人教師の日本語学習観/教授観、教師の置かれている環境に対する意識などを把握することが極めて有益であると考え、今回の研究を実施することにした。本稿では、中等教育機関のタイ人日本語教師 (n=106) を対象とした質問紙調査から、a)日本語の知識と技能、b)指導に関する知識と技能、c)教育目的と価値、d)教職教養、e)教員採用、f)校内研修、g)教材、h)仕事、i)生徒との関係、の9領域にわたるタイ人教師のピリーフを明らかにする。

### 2. 先行研究

タイ人日本語教師を対象にしたピリーフや意識調査は、理想の日本語教師像、国の定める教師教育スタンダードに対する意識調査、タイ人教師と日本人教師のピリーフの違いや協働といった様々なテーマでこれまでに研究されてきている。

教師が考える良い日本語教師像については、古別府 (2008、2009) や八田他 (2012) の調査がある。古別府 (2008) は PAC 分析と半構造化面接を用いて、中等教育機関のタイ人日本語教師が抱く、良き日本語教師観について質的分析を行ない、古別府 (2009) では、量的分析手法を用いて、同じく中等教育機関のタイ人教師が考える「優れた」日本語教師の行動特性を抽出した。どちらの結果も、教師による学習者への思いやりと、専門知識を有し、授業実践能力が重視されていることを指摘した。同様の研究課題では、八田他 (2012) が現職教師研修に参加した大学所属のタイ人新人日本語教師2名が考える「いい日本語教師像」とは何かを探るべく、研修開始直前と直後でどのような研修の効果があったかについて PAC 分析を行なっている。

さらに、タイの高校を対象を絞ったものとして、中井 (2009) は、タイ人高校教師と日本語を学ぶタイ人生徒を対象に、タイの高校で求められる日本人日本語教師の特性を明らかにした。その調査結果が示すところによれば、教師と生徒との意識に若干の差はあるものの、両者とも求めているのは、分かりやすい日本語の授業が行える「授業の実践能力」、生徒への理解力がある「教師の人間性」、そして、熱心で責任感のある「教師の態度」であったとしている。

タイ人教師と日本人教師の実際の協働という点からは、池谷他（2012）、片桐他（2011）などの研究がある。池谷他（2012）は「協働」について、タイ人教師、日本人教師の両者がどのようなイメージを持つかに関して PAC 分析を行った。タイ人教師は学習者の日本語接触場面の機会増加、そして、学習者の日本語能力向上のために協働していると考えているのに対し、日本人教師は協働相手であるタイ人教師を理解するため、また、異文化に接するためと考えており、両者の意識の違いを明らかにしている。片桐他（2011）は、タイ人教師が日本人教師と協働するタイの大学における教育現場を分析し、協働現場の相互作用による学びから、タイ人教師が「成長する日本語教師」になれるとした。

西野他（2011）は、タイで 2005 年に初中等教員向けに公布された「教育専門職スタンダード及び倫理規定（Education Professional Standards）」を取り上げて、現場の教員にそのスタンダードがどのように受け止められているかを調査した。スタンダードの言語教育に関する能力記述文を提示した上で、調査対象者に自己評価と、その能力向上を望むかどうかを尋ねたところ、多くの教員が日本語能力と同じく、スタンダードに記述されている専門能力も向上を望んでいるとした。一方で、一部の項目に関しては、教育現場に合っていないものだと指摘している。

岡崎（2003）は、タイにおける日本語母語話者教師と、非母語話者教師のビリーフを、BALLI 調査票を使用して比較検討している。「言語外行動」や「外国語学習と文化」に関する項目で両者の一致があったが、「教師の役割や責任」などで回答分布に異なりがあったとし、協働する際の注意すべき点としている。ただし、当該調査は中等教育、高等教育、日本語学校と性質の違う教育機関に属する教師を一斉に対象としている。

先行研究を概観すると、中等教育機関のタイ人日本語教師のみを対象とし、かつ、授業実践を行なっている教師としての視点で、日本語力とその指導に関する知識と技能、また、教師自身が置かれている教育環境や、同僚や生徒との関係性について、タイ人教師がどのように捉えているのかといった包括的な意識調査は、管見の及ぶ限り、これまでに行われてきていない。

### 3. 研究目的と調査概要

#### 3.1 研究目的

本研究では、a)日本語の知識と技能、b)指導に関する知識と技能、c)教育目的と価値、d)教職教養、e)教員採用、f)校内研修、g)教材、h)仕事、i)生徒との関係、の 9 領域にわたる質問紙調査で、中等教育機関のタイ人日本語教師の意識を明らかにすることを目的とする。

#### 3.2 調査方法の概要

本調査の質問紙は、笹島・ボーグ（2009）が、中等教育機関に属する日本の英語教師と、スコットランドの外国語教師にアンケートを実施した際に使用した、5 段階のリカート尺度（Likert scale）で回答を求める質問項目を採用した。教師認知を探るうえで、笹島・ボーグは、対象言語

の知識と技能、指導に関する知識と技能はどちらも教師にとって必須要素と考え、授業実践は、教師自身が教育目標や価値観に基づき行っているとした。加えて、授業で対象言語を教えるのみならず、教師としての教養や雇用に至る要件、校内研修の機会や教材、生徒との関係性なども考慮した上で、質問項目を厳選している。本研究では、笹島・ボーグの調査結果をタイでの事例とも比較、検討すべく、同様の質問項目での調査を実施した。

予備調査として、教師バックグラウンド（ひとりとは図書館司書兼担、もうひとりとは英語科目兼担）と日本語能力が異なるタイ人日本語教師2名、同じく日本語能力が異なるタイ人日本語教育実習生2名（ひとりとは日本の大学に約1年間の交換留学経験あり）に調査を行った。質問項目には、理解が難しいと思われるものもあったが、併記されている英語を参照することで理解できたとのことだった。そこで、オリジナルの英語、そして日本語とタイ語の3言語を併記することで意味解釈の齟齬を極力防ぐために、日本語と英語の質問のみで行うことにした。

調査対象者は、ウボンラーチャターニー（東北部）、コンケン（東北部）、バンコク（中部）、ピサヌローク（北部）の教師研修に参加したタイ人日本語教師（n=106）に任意での協力を依頼した。タイ人教師は、日本語教育実習生として教壇に立っている初任教师から、日本語教授経験が20年近くになるベテラン教師まで含まれる。調査時期は、2014年6月から10月である。

## 5. 調査結果と考察

全33項目は、前述したように9領域に分類される。各領域の調査結果とその考察を下記に述べる。なお、表中の「1」が「強く思う」で、「5」が「全く思わない」を表す。また、表で網掛けされている値が最頻値であり、NAは、無回答、または不鮮明な回答だったものを示す。

### 5.1 日本語の知識と技能

表1において、日本語の授業実践に難しさを感じるかについては、どちらとも言えないと答える教師が最も多い一方で、全体の4割以上が何らかの難しさを感じている。その授業実践で、日本語の発音の正確さについては、「1」と「2」を選択した教師はほぼ同数で、あわせて回答者の約7割が重要視しており、そう思わないと回答した教師は全体でわずか約5%にとどまる。また、学習者が語彙や文法を学ぶことについても大切だと考える教師が約7割おり、全体の4分の3以上は、日本文化を教えることも大切だと捉えている。その授業スタイルとしては、反復練習の重要性を強く認識している教師が多数を占め、賛意する回答者は約8割にもものぼる。翻訳練習の大切さについて、どちらとも言えないとする中立的な意見が全体の4割であったが、注目すべき点としては、大切だと考える教師も、「1」と「2」で全体の半数近くいることである。岡崎（2003）が様々な教育機関で教える教師を対象にした際も、「日本語学習で一番重要なのはタイ語から日本語への翻訳の方法を勉強することだ」という意見にタイ人日本語教師の61.3%が賛同したのと同じ傾向である。また、笹島・ボーグ（2009）が中等教育の教員を対象に調査した同じ質問項目で、

日本人英語教師は 14.5%、スコットランドの外国語教師は 2.6% しか存在しなかった点と比較しても、この割合は顕著である。この傾向は、報告者がこれまでに見学してきた多くの現場で、文法訳読法による授業が頻繁に行われている点とも一致する。

表 1：日本語の知識と技能

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
1	日本語授業はむずかしい	11.3	31.1	39.6	13.2	3.8	0.9	2.6
2	すばらしい発音は重要	37.7	34.0	22.6	2.8	2.8	0.0	2.0
3	日本の文化を知ることは重要	48.1	28.3	12.3	7.5	3.8	0.0	1.9
4	日本語学習で大切なのは語彙	34.0	42.5	15.1	5.7	2.8	0.0	2.0
5	日本語学習で大切なのは文法	17.9	49.1	24.5	6.6	1.9	0.0	2.3
6	日本語学習で大切なのは訳すこと	9.4	36.8	37.7	13.2	2.8	0.0	2.6
7	繰り返して練習することは重要	57.5	27.4	10.4	1.9	2.8	0.0	1.7

## 5.2 指導に関する知識と技能

表 2 は、日本語指導における知識と技能についての結果である。日本語を正しく発話できない段階であっても、学習者が口頭産出することについて肯定的に捉える教師は、僅かに全体の半数であった。着目すべき点は、否定的な教師も約 3 割おり、それが教室内での学習者の発話を抑制する強い要因の可能性とも言える。しかし、つづく設問でコミュニケーションを重視した指導が最善の指導だと考える教師は約 7 割、授業で日本語をよく使うとする教師も約 6 割存在する。前節で述べたように、文法と語彙を教えることを重視した教師が多かったことや、設問 9 で「1」よりも「2」を選択した教師が僅かながら多い理由からも、日本語を使ったコミュニケーションを重視した指導をしていますが、流暢さより、正確さに重点を置いていることが推測できる。

日本語を教えるにあたり、その指針となる学習指導要領を理解している教師は約 3 割である。タイ教育省の定める基礎教育カリキュラムでは、コミュニケーション能力向上を重視しているが（セントーンズック他 2012）、教師の多くはあまり理解せずに教えていることになる。また、指導技術については、約 3 分の 2 の教師が養成課程での学びが役立ったと答える一方で、回答者自身に指導知識と技能が十分にあるかについては、「1」と回答したのは僅少の 3.8%、「2」と答えた教師と併せても僅かに全体の 4 分の 1 しかおらず、教授技術に自信を持っている教師は極めて少ない。補足として、回答者は教師 1 年目の実習生だけでなく、経験の長い教師も含まれている。経験年数に応じて、十分な指導の知識と技能を身に付けたと考える教師は少ないと言える。

授業で生徒とうまくやりとりができるかという問いに対しては、「1」が 1 割を切るのに対して、「2」がほぼ回答者の半数である。考えられる一因として、タイの中等教育レベルの日本語教育では、週当たりの授業時間数が短い選択クラスの割合が多いことや、そのクラスサイズとして、1 クラスたりの人数が、30-50 人といった場合も少なくないことが考えられる。

表2：指導に関する知識と技能

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
8	正しく言えるまで日本語を使わない方がよい	12.3	17.0	17.0	19.8	34.0	0.0	3.5
9	コミュニケーションを重視した指導は最善の指導	32.1	38.7	24.5	2.8	1.9	0.0	2.0
10	授業で日本語を使う	27.4	34.9	30.2	5.7	0.9	0.9	2.2
11	学習指導要領を理解している	3.8	28.3	50.9	15.1	1.9	0.0	2.8
12	教員養成で学んだ指導法は有効	31.1	34.0	27.4	3.8	0.9	2.8	2.0
13	十分な指導の知識と技能がある	3.8	22.6	46.2	15.1	11.3	0.9	3.0
14	授業で生徒とうまくやりとりができる	8.5	49.1	33.0	8.5	0.9	0.0	2.4

### 5.3 教育目的と価値

中等教育機関で教える日本語教師として、主な教育目的は、表3が示すように、日本語を教えることと、生徒の人間形成だと考える教師はそれぞれ全体の約3分の2を占める。設問15、18それぞれで「2」が多かった結果からも、日本語教授と人間形成のどちらも重要視している教師が多いと推察できる。日本語教師であっても、単に日本語の言語構造知識を教えるだけでなく、日本語の授業を通した生徒の人間形成を重要だと捉えていることが、データから読み取れる。

表3：教育目的と価値

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
15	教員の主たる仕事は日本語を教えること	18.9	43.4	26.4	9.4	1.9	0.0	2.3
16	生徒の人間形成を大切にしている	8.5	55.7	30.2	2.8	1.9	0.9	2.3
17	教員養成や初任者研修で自身の教育に対する考えを確立した	4.7	43.4	47.2	2.8	0.9	0.9	2.5
18	教員の主たる仕事は生徒の人間形成	14.2	52.8	30.2	1.9	0.9	0.0	2.2

### 5.4 教職教養

前述の設問1では、教師の視点で、日本語の授業実践を難しいと捉えた教師が約4割に上ったが、表4の結果が示すように、設問19の学習者視点においても、中等教育機関の他科目と比較すると、外国語科目のひとつである日本語は難しいと考える教師は全体の約半数だった。その授業実践において、教員養成課程で学んだ経験が、教師のビリーフや、教え方に対する姿勢に影響を与えたかについては、「2」を選択した教師が半数を占め、前節の設問17の回答傾向からも、必ずしも養成課程の学びが教師に強い影響を与えたとは言いきれない。また、日本語指導にあたって、言語学を学ぶことも役立つと考える教師が約3分の2も存在することは、実践技術のみならず、理論的な学びも必要と考えている教師が多いことを示唆している。文法を教えることが大切だと捉えた教師が多いことが判明したと前述したように、言語構造について理論的知識を身に付けることが教師にとって必要だと認識されていると言える。

表 4：教職教養

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
19	日本語学習は他の科目より難しい	17.0	38.7	30.2	13.2	0.9	0.0	2.4
20	言語学を学ぶことは日本語指導に役立つ	16.0	50.9	28.3	1.9	0.9	1.9	2.2
21	教員養成課程は現在の自身の考え方や態度に影響を与えた	20.8	47.2	27.4	2.8	1.9	0.0	2.2

### 5.5 教員採用

日本語能力よりも、個性やコミュニケーション能力などが大切だと考える教師が全体の3分の2だった（設問 23）。一方で、日本語能力が最も大切だと捉える教師の方がやや多く、賛意する回答者は全体の約8割近くになり、「5」とした教師は皆無、「4」とした教師も1.9%にとどまる（設問 22）。しかし、教員に求められる知識や技術をトレーニングする時間があるかという設問に対しては、「1」と回答した教師はわずかに8.5%であり、どちらとも言えない、またはそう思わないとした教師は併せて半数以上になる。これは、多くの教師が日本語能力や日本語教授能力向上を望みながら、教師研修を受けられる機会が十分でないことも一因として考えられる。

表 5：教員採用

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
22	日本語力は教員として最も必要	31.1	46.2	20.8	1.9	0.0	0.0	1.9
23	個性、コミュニケーション能力、リーダーシップは日本語力より重要	26.4	39.6	26.4	6.6	0.9	0.0	2.2
24	教員としての知識と技能を身に付ける十分な時間がある	8.5	37.7	33.0	14.2	6.6	0.0	2.7

### 5.6 校内研修

表 6 の項目は校内での研修について調査したものである。同僚や仲間による授業参観は重要であると約3分の2の教師が考え、また、その同僚や仲間、そして学校の雰囲気は教師自身の考え方に影響するとしている。しかし、実際には、その同僚らと十分な授業研究の時間があるとした教師は僅かに2.8%で、「2」と答えた教師も約4割にとどまる。理由としては、一般的に中等教育機関の教師は校務で忙しいということも挙げられるが、他科目と兼務して教えている場合や、英語教員と比較しても、校内に日本語教師が多く在籍しないといった要因も考えられる。

表 6：校内研修

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
25	同僚（仲間）と十分な授業研究の時間がある	2.8	38.7	36.8	18.9	2.8	0.0	2.8
26	同僚や仲間の日本語授業参観は重要	13.2	53.8	26.4	1.9	1.9	2.8	2.2
27	同僚や仲間や学校の雰囲気（文化）は自身の考え方に影響する	13.2	48.1	28.3	7.5	2.8	0.0	2.4

### 5.7 教材

タイでは、中等教育機関で日本語を学ぶ生徒のために、国際交流基金がこれまでに多くの主/副教材を開発してきた（例：『あきこと友だち』『こはるといっしょに』）。これら教科書に対する教師の意識調査は改めて行う必要があるものの、日本語教材が比較的充実していることもあり、表7が示すように、教材が教員よりも重要だと考える教師は、全体の3割ほどであった。

表7：教材

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
28	教材は教員より重要	9.4	27.4	34.0	21.7	7.5	0.0	2.9

### 5.8 仕事

生徒のモデルとなるべきと考える教師の割合が圧倒的に多い。「1」「2」で8割を超え、「4」「5」の計3.8%と極めて対照的であり、タイ人教師が強い規範意識を持っていることが窺える。設問17、21と同様、設問30の結果もまた、教師の多くが養成課程での学びと授業実践との関連性を認めてはいるが、「1」より「2」の割合がかなり高いことから、その度合いにはばらつきがある。

表8：仕事

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
29	教員は生徒のモデル（模範）	44.3	39.6	12.3	1.9	1.9	0.0	1.8
30	教員養成課程の内容は教員の実際の仕事と関連している	15.1	57.5	21.7	5.7	0.0	0.0	2.2

### 5.9 生徒との関係

表9の項目は、日本語を学ぶ生徒との関係性についてである。よい日本語授業のためには、生徒と良好な関係性を築くことが重要だと約9割のタイ人教師が考えている。そして、授業以外でも生徒とコミュニケーションをとることが、よい関係性を築くために必須だと考えている。また、その生徒たちをどのように理解するかは、半数以上が、教員養成課程で学んだとしている。

表9：生徒との関係

番号	質問項目	強く思う			全く思わない		NA	平均
		1	2	3	4	5		
31	生徒とのよい関係はよい授業のカギ	50.9	37.7	6.6	2.8	1.9	0.0	1.7
32	生徒理解の仕方を教員養成課程で学んだ	15.1	48.1	31.1	2.8	2.8	0.0	2.3
33	日本語授業以外での生徒とのコミュニケーションは重要	46.2	35.8	14.2	2.8	0.9	0.0	1.8

## 6. まとめと課題

今回の結果は調査人数が統計的に少ない為、中等教育機関におけるタイ人日本語教師全体の教師認知を一般化するものにはならないが、ある一定の傾向を示すことはできたと考える。結果を

まとめると、正確な日本語の発音、文法や語彙学習の重要性を認識している教師が多く、その教授方法として、反復練習、ついで、翻訳することを重視している教師が多かった。また、コミュニケーションを重視した指導は最善とする回答者が多かった一方、学習者が正確に発話できるまでは日本語を産出しない方がいい、または産出していいかどうか決めかねるといった回答が半数近くに上った。また、今回、多様な教授経験年数の教師に調査したにもかかわらず、十分な指導の知識と技能があるかについては、強く思うとする教師は僅かに3.8%に過ぎなかった。その結果は、教師が、日本語を教えることも（設問1）、学習することも（設問19）難しいと捉えていることや、一方で、日本語能力や日本語教授能力向上のための機会が十分でない（設問24、25）と認識していることが影響していると推察できる。また、教員養成課程での学びと実践現場が必ずしも連繋していない可能性（設問17、21、30）も要因として考えられる。これらの結果から、タイ人教師は、コミュニケーション能力を育む日本語授業実践の必要性を認識し、教師自身もそれを望んでいながらも、その具体的な実践方法について、十分に学ぶ機会がないと言える。

今後、より深くタイ人日本語教師のビリーフと実践を理解するために、主な研究課題として、まず、1) タイ人教師はコミュニケーション能力とその言語活動をどのように定義するのか、次に、2) タイ人教師は実際の授業実践で、どのようなコミュニケーション言語活動を行っているのか、そして、3) タイ人教師のティーチングビリーフと実際の授業実践は一致しているのか、一致していない場合、どんな要因が影響しているのか、の3つを明らかにする必要がある。

Borg (2006)、笹島・ボーグ (2009) は、言語教師認知を理解する為に、構成要素とそのプロセスを分析する必要性を述べている。教師認知は、学習経験や教員養成課程や研修、教育環境、授業実践などの多種多様な内的、外的要因が相互に影響しあいながら形作られていくとしている。実際の授業観察やインタビュー調査などの質的研究によって、より深く分析する必要がある。

謝辞：本研究に調査協力を快諾して下さった日本語教師の皆様に、深くお礼を申し上げます。

## 参考文献

- 池谷清美・Kanokwan Laohaburanakit KATAGIRI・片桐準二 (2012) 「タイ国高等教育機関におけるタイ人教師と日本人教師の協働観の比較—PAC 分析からの考察—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第9号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp.29-38
- 岡崎智己 (2003) 「タイにおける日本語母語話者教師と非母語話者教師の BELIEFS 比較」『日本語教育方法研究会誌』第10巻1号、日本語教育方法研究会、pp.28-29
- 片桐準二・Kanokwan Laohaburanakit KATAGIRI・池谷清美・中山英治 (2011) 「タイ高等教育の日本語教育協働現場における「成長する教師」の可能性—タイ人教師が経験する協働現場の実態分析からの考察—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第8号、国際交

流基金バンコク日本文化センター、pp.35-44

笹島茂・ボーグ,S (2009)『言語教師認知の研究』、開拓社

セントーンズック,P・三浦多佳史・渋谷実希 (2012)「タイ国中等教育機関の日本語選択コース用  
ひらがな教材開発報告」『国際交流基金日本語教育紀要』第8号、国際交流基金、pp.119-133

中井雅也(2009)「タイの高校で求められる日本人日本語教師像—学生とタイ人教師の観点から—」  
『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第6号、国際交流基金バンコク日  
本文化センター、pp.43-52

西野藍・太原ゆか・内田陽子 (2011)「タイの中等日本語教育と Education Professional Standards—  
現場の教員の視点から見た意義と問題—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育  
紀要』第8号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp.115-124

八田直美・小澤伊久美・嶽肩志江・坪根由香里 (2012)「ノンネイティブ新人日本語教師にとって  
の研修の意義—PAC 分析によるタイ人新人日本語教師のビリーフ調査から—」『国際交流基金  
日本語教育紀要』第8号、国際交流基金、pp.23-39

古別府ひづる (2008)「タイ中等教育機関におけるタイ人日本語教師の良い日本語教師観—PAC  
分析と半構造化面接より—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第5  
号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp.37-46

古別府ひづる (2009)「タイ中等教育機関の日本語教師が求める日本語教師の行動特性—探索的因  
子分析より—」『日本教科教育学会誌』第32巻1号、日本教科教育学会、pp.59-70

Borg, S. (2006) *Teacher cognition and language education: Research and practice*. London: Continuum.

### 【添付資料】アンケート質問項目 (日本語と英語)

#### a) 日本語の知識と技能

1.日本語授業はむずかしい

Do you think it is difficult to teach Japanese to your students?

2.すばらしい発音は重要

Do you think it is important to speak Japanese with an excellent accent?

3.日本の文化を知ることは重要

Do you think it is necessary to know Japanese culture in order to speak Japanese?

4.日本語学習で大切なのは語彙

Do you think learning Japanese is mostly a matter of learning many new vocabulary words?

5.日本語学習で大切なのは文法

Do you think learning Japanese is mostly a matter of learning many of grammar rules?

6.日本語学習で大切なのは訳すこと

Do you think learning Japanese is mostly a matter of translating from Japanese or Thai language?

7.繰り返して練習することは重要

Do you think it is important to repeat and practice often?

#### b) 指導に関する知識と技能

8.正しく言えるまで日本語を使わない方がよい

Do you think you should not let your students say anything in Japanese until they can say it correctly?

9.コミュニケーションを重視した指導は最善の指導

Do you think communicative language teaching is the best teaching method?

10.授業で日本語を使う

Do you think you often use Japanese in your Japanese classroom?

11. 学習指導要領を理解している

Do you think you understand the national curriculum well?

12. 教員養成で学んだ指導法は有効

Do you think teaching methodologies you have studied in teacher education are very useful?

どこで学びましたか? Where did you study teaching methodologies?

例: 大学、独学、その他(具体的に) ex. At university, self-study, others (please specify) ( )

日本語教授経験年数 Years of Japanese teaching experience 年 year(s) か月 month(s)

13. 十分な指導の知識と技能がある

Do you think you have sufficient teaching knowledge and skills?

14. 授業で生徒とうまくやりとりができる

Do you think you can have good interaction with your students in the classroom?

**c) 教育目的と価値**

15. 教員の主たる仕事は日本語を教えること

Do you think your main work is teaching Japanese at school?

16. 生徒の人間形成を大切にしている

Do you think you can contribute to your students' human development?

17. 教員養成や初任者研修で自身の教育に対する考えを確立した

Do you think you have attained your educational purposes or values during your pre-service or induction periods?

18. 教員の主たる仕事は生徒の人間形成

Do you think your main work is to help your students develop their human development?

**d) 教職教養**

19. 日本語学習は他の科目より難しい

Do you think that learning Japanese is different from learning other school subjects?

20. 言語学を学ぶことは日本語指導に役立つ

Do you think studying theoretical linguistics is useful to teach Japanese?

21. 教員養成課程は現在の自身の考え方や態度に影響を与えた

Do you think your pre-service education program have influenced your current teacher beliefs or attitudes?

**e) 教員採用**

22. 日本語力は教員として最も必要

Do you think sufficient Japanese proficiency is the most necessary to become a qualified teacher?

23. 個性、コミュニケーション能力、リーダーシップは日本語力より重要

Do you think that strong or positive personality, communication ability and leadership can be more important than Japanese knowledge and skills?

24. 教員としての知識と技能を身に付ける十分な時間がある

Do you think you have sufficient study time for professional knowledge and skills?

**f) 校内研修**

25. 同僚(仲間)と十分な授業研究の時間がある

Do you think you have sufficient time for lesson study with your colleagues?

26. 同僚や仲間の日本語授業参観は重要

Do you think it is important to observe your colleagues' Japanese classrooms?

27. 同僚や仲間や学校の雰囲気(文化)は自身の考え方に影響する

Do you think your colleagues or school culture can influence your teaching styles?

**g) 教材**

28. 教材は教員より重要

Do you think materials are more important than teachers?

**h) 仕事**

29. 教員は生徒のモデル(模範)

Do you think teachers should be a model for their students?

30. 教員養成課程の内容は教員の実際の仕事と関連している

Do you think pre-service teacher education contents are related to the current work at school?

**i) 生徒との関係**

31. 生徒とのよい関係はよい授業のカギ

Do you think good relationships with your students are key to good teaching?

32. 生徒理解の仕方を教員養成課程で学んだ

Do you think it was during pre-service education when you learned how to understand your students?

33. 日本語授業以外での生徒とのコミュニケーションは重要

Do you think it is important to try to communicate with your students out of Japanese classrooms?